

しよだいぶ
諸大夫の間(鶴の間)の障壁画

観 殿

参内した人の控えの間で、襖絵に
ちなんで、格の高い方から、虎の間・
鶴の間・桜の間と呼ぶ3間が並んでい
ます。

「諸大夫の間」というのは元々桜の間の
ことでしたが、3間の総称となっています。

鶴の間の襖絵制作者は狩野永岳
で、狩野永徳の弟子狩野山楽に始
まる京狩野派の九代目です。



永岳の描いた障壁画は他に、御学問所 上段の間じゅうはちがくしとうえいしゅうず (十八学士登瀛州の図)、
御常御殿 上段の間ぎょうにんげんとちず (堯任賢図治図)、一の間いっのま (朗詠の意)、
皇后御殿 御小座敷上の間ごふん (三保の浦春の富士) などがあります。



諸大夫の間の障壁画は、麻布の表面を胡粉で仕上げた(油彩画のキャンバスに近いもの)上に、墨絵淡彩で
描かれています。鶴の間は東西南北に各4面の襖があり、そこに鶴は全部で37羽描かれております。そのうち
南面の7羽は飛んでいます。

* 南面の襖絵は参観場所から裏側にあたるため、見るできません。

京都御所には約1,800面の障壁画がありますが、風景、花鳥、走獸等、様々な題材が用いられています。本号の花ごよみに合わせ、京都御所の諸大夫の間に画かれている桜をご紹介します。



北面 通

◆ 諸大夫の間(桜の間)

諸大夫の間は、東から順に、「虎の間」(葉其の二十)、「鶴の間」(葉其の一)、「桜の間」と三部屋で構成され、参内した人の控えの間として使用されましたが、身分によって使用する部屋が区別されていました。ご紹介する桜の間は、三部屋の中で格付けが最も下になる部屋でした。現在では虎の間、鶴の間、桜の間の三間の総称を諸大夫の間と呼んでいますが、本来、諸大夫の間というと桜の間を表していました。

桜の間の襖には、麻を下地に墨を用いて、東西南北の襖・戸襖・張付(計18面)に桜が画かれています。とても力強い木の幹の表現や、満開の状態で画かれた花びら(写真:中段)が、水墨画でありながら華やかな印象を与えてくれます。

作者は、安政2年(1855)安政度御造営の際に、御学問所や御常御殿など、77面もの障壁画を担当した原在照です。原在照は、原派の3代目となる人物で、明治天皇即位の際には、曲水の宴の屏風を制作するなど、宮中の御用を多く務めています。



桜の花びら

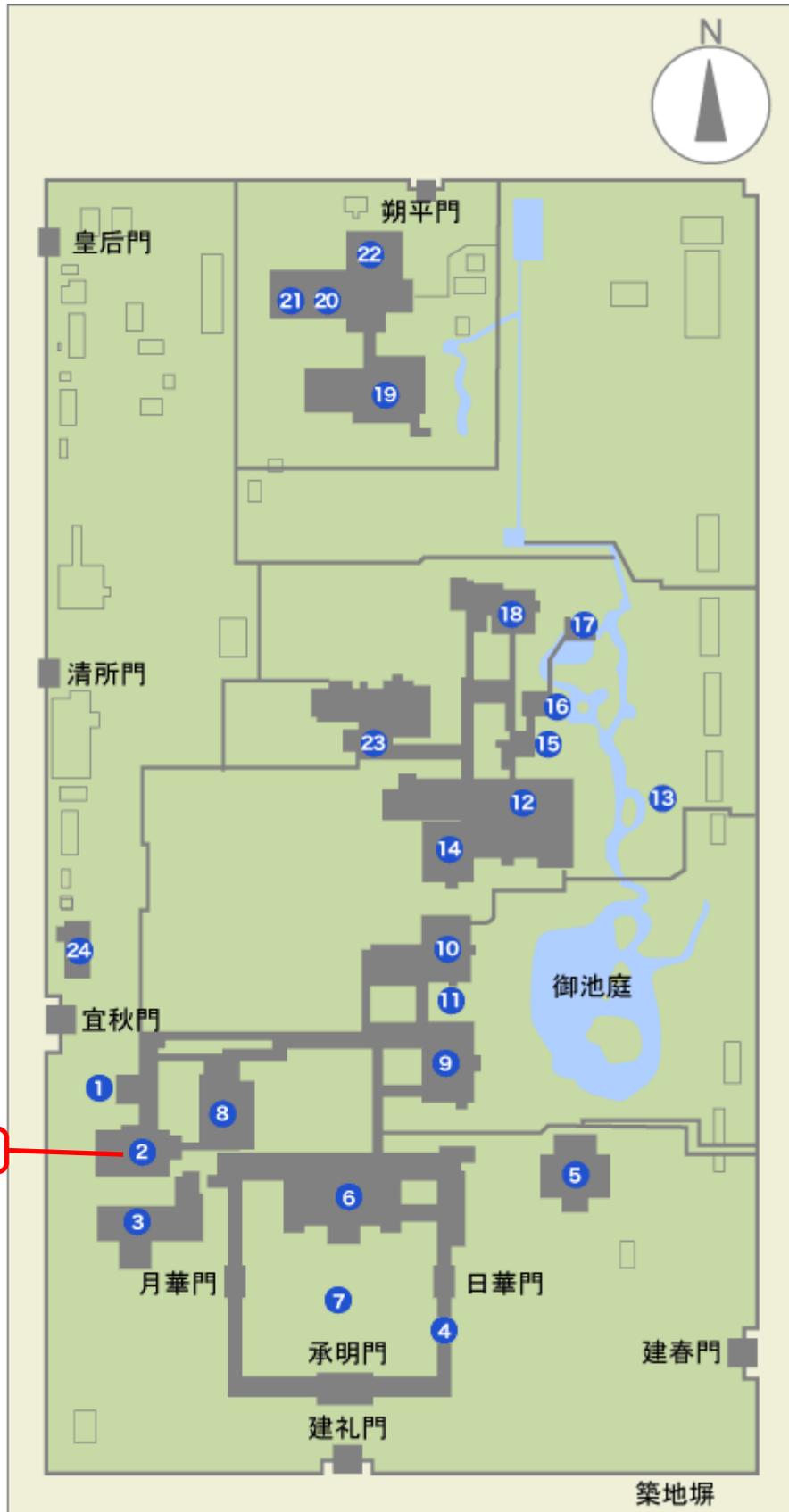


東面 通

京都御所案内図

- ① 御車寄
- ② 諸大夫の間
- ③ 新御車寄
- ④ 回廊
- ⑤ 春興殿
- ⑥ 紫宸殿
- ⑦ 南庭
- ⑧ 清涼殿
- ⑨ 小御所
- ⑩ 御学問所
- ⑪ 蹴鞠の庭
- ⑫ 御常御殿
- ⑬ 御内庭
- ⑭ 御三間
- ⑮ 迎春
- ⑯ 御涼所
- ⑰ 聴雪
- ⑱ 御花御殿
- ⑲ 皇后宮常御殿
- ⑳ 若宮御殿
- ㉑ 姫宮御殿
- ㉒ 飛香舎
- ㉓ 参内殿
- ㉔ 参観者休所

諸大夫の間



観マークは、参観でご覧になれます。申込み方法は、<http://sankan.kunaicho.go.jp/> をご覧ください。

通マークは、申込不要の京都御所通年公開でご覧になれます。

詳細は、<http://www.kunaicho.go.jp/info/kyototsunen-sks-sankan.html> をご覧ください。

これまでの「《京都》御所と離宮の栞」については、宮内庁ホームページの[こちら](#)からご覧ください。

<問い合わせ先>
 〒602-8611 京都市上京区京都御苑3 宮内庁京都事務所
 代表電話：075-211-1211 参観係直通電話：075-211-1215